

小児の新型コロナワクチン接種の知見と注意点

国立感染症研究所感染症疫学センター 多屋馨子

新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）は、2020年3月にパンデミック状態となり、2021年8月現在、世界の累積感染者数は2億人を超え、死亡者数は428万人を超えました。デルタ株の出現で感染者数が急増し、国内の医療体制は災害級の緊急事態となっています。検査で陽性が確認された人の87.9%は成人（20代が最多で24%）ですが、小児の割合も徐々に増加傾向にあります。小児は感染しても無症状あるいは軽症のことが多いですが、基礎疾患のある小児や2歳未満では重症化のリスクがあり注意が必要です。低年齢の小児への感染源は多くが家庭内の成人で、まず小児の周りにいる成人が感染しないように心がけるとともに予防接種を受けることが大切です。2021年2月に医療従事者等から始まった新型コロナワクチンは8月13日現在、1億800万回接種を超え、2回接種完了率は36.5%、65歳以上高齢者の2回接種完了率は83.4%に達しました。2021年6月に接種対象者が「16歳以上」から「12歳以上」に変更されましたが、12歳未満に接種可能なワクチンはありません。いずれのワクチンも2回接種から14日以降のワクチン効果は高く、変異株に対しても重症化予防、死亡予防の効果が確認されています。一方、稀ながら接種後にアナフィラキシーを発症することがあり、接種部位の疼痛、接種後の発熱、頭痛、倦怠感、関節痛、筋肉痛等の副反応の出現頻度は高いワクチンです。また、稀ながら思春期から若年成人男性において、特に2回目接種後数日で心筋炎・心膜炎を発症することがあり、胸痛や息切れ、動悸などの症状を認めた場合は、速やかに医療機関を受診する必要があります。まずはCOVID-19を発症した場合の重症度、ワクチンの効果と副反応をよく理解することが大切です。

略歴

- 1986年3月 高知医科大学（現 高知大学）医学部医学科 卒業
- 1986年4月 大阪大学医学部小児科学講座に入局
- 1988年6月 大阪市立桃山病院感染症センター小児科 研究医
- 1991年7月 大阪大学医学部附属病院小児科 医員
- 1994年8月 大阪大学医学部微生物学講座 助手（現 助教）
- 1996年10月 大阪大学医学部小児科学講座 助手（現 助教）
- 2001年2月 国立感染症研究所感染症情報センター主任研究官
- 2002年4月 国立感染症研究所感染症情報センター第三室 室長
- 2013年4月 国立感染症研究所感染症疫学センター第三室 室長
- 2021年4月 国立感染症研究所感染症疫学センター予防接種総括研究官

所属学会

- 日本小児科学会
- 日本小児保健協会
- 日本小児感染症学会
- 日本ワクチン学会
- 日本ウイルス学会
- 日本臨床ウイルス学会
- 日本感染症学会
- 日本環境感染学会
- 日本神経感染症学会
- 日本バイオセーフティ学会
- 日本疫学会
- 日本公衆衛生学会
- 日本臨床微生物学会
- 日本化学療法学会